

日本産シソ科タツナミソウ属の新種を発見！



自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

高野 温子

分担者を務める環境研究総合推進費（代表：矢原徹一氏）の研究の一環で、シソ科タツナミソウ属を各地で調査し、未記載種を2つ（“epunctata”と“kibiensis”）見出しました。どちらも花冠長が2センチ超えの、本属としては大きな花をつけ、ハナタツナミソウと認識されていました。ですが“epunctata”の方は、ハナタツナミソウに特徴的な葉の両面の腺点がほとんど見られず、かつ葉柄が非常に短いか無い点、“kibiensis”は同様に腺点のない卵形葉を持つことでハナタツナミソウから区別されず。MIG-seqを用いた分子系統解析(下図)も、この2種が新種であるという結果を支持しています。

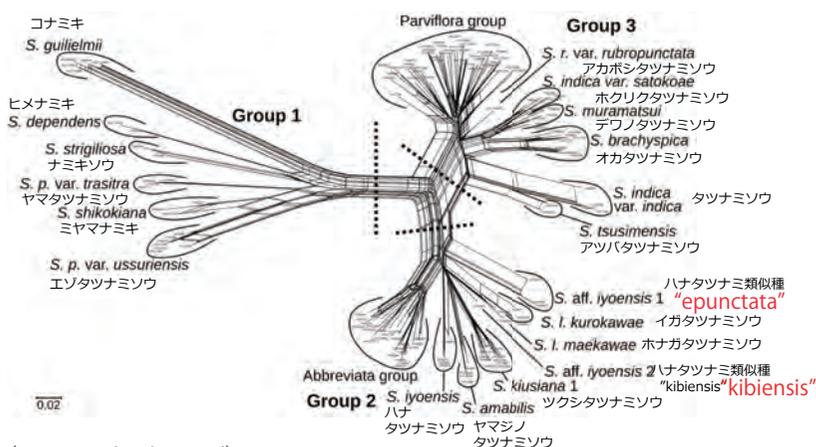


(写真上) ハナタツナミソウ (岡山県)



(写真右) 未記載種その①“epunctata”(香川県)

(写真下2枚) 未記載種その②“kibiensis”(岡山県)



(Hirota et al. submitted)